

Freude

vol. 9-5 2016.12.7.wed

おともだち
つよめこ♡♡

大阪フロイデ合唱団 Tel 06-6358-2626
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-18-4B
ホームページ <http://www.osakafreude.com>
メールアドレス info@osakafreude.com

11/30の練習メモ・ ところに読み直しTは Vivaldi の 4 Gr^{atias} Agim^{us} Tibi.
あーあ、11/23にやったところの読み直しをした。 (tia を音読み → ツィ ティ)

Vivaldi の 5 を集中して復習した。特に 1→1、HO HO HO HO... と音と切、どうする!!

→ 11/30まで 1, 2, 4, 5, 7 をそれぞれ各自、おひいてね!

Cherubini の Kyrie を読み直した。「B はあると B はやさしく」という表現に感心。Z Gloria は 11/23に読み直した。はあ、ああ、ああ、ほわ、ほわ、ほわ、アカンテ、アカンテ、アカンテ

読書会とは、読み直しとあり読み直し。新しい人もぜひいらして参加のね?
読み直しは、それぞれ復習するのは各自の努力!! 練習曲も活用してね!!

大阪フロイデ合唱団 運営委員会

栗野、岩井 T、杉田、辻井、西野、三島、よけいあ
とモ

2016.12.2 (金)

1) 団員数

12/2 現在

	ソプラノ	アルト	テノール	バス	合計
継続団員	19	38	10	9	76
新入団員	1			1	2
復帰団員	2				2
合計人数	22	38	10	10	80

◆ 団員募集対策もつと!

2) 運営体制について

◆ 運営アンケート: 日程: 12/7~1/4 (まとめ: 前田さん) → 1月の運営委員で検討します
いろいろ作業負担が決まった人に集中しちゃってます! ぜひ、できること、協力してね!

3) 〇〇連絡事項

- ◆ 新人歓迎懇親会: 1/22 練習後の予定
- ◆ グループミーティングの開始: グループ名鑑発行から逆算... 2/1くらいから開始かな。
(団員番号末尾の数字でグループ分けをします。団員自己紹介誌 = グループ名鑑をつくれます)
- ◆ グループ名鑑の発行は、4月の強化練習時目標 (元締め河野ゆかりちゃん段取りよろしく!)

4) 会計報告&会計予想 → 12/18 ころ報告予定。

- ◆ 先期シュシは、演奏会会計は大きく赤。日常会計は若干の黒。全体としては、赤。
ただし、日常会計の黒は、事務所の岩井Bコレクションを、承諾を得て、業者売却した収入が大きな要因。
- ◆ 今期ヴィヴァルディは、日常会計は、団員が最低87名居ないとペイしない見込み。
演奏会ではソリストが二人で済むが、オケの必要人数が増えるため、経費的には同等またはむしろ増えそう。
→ 現在、決算書作成&監査中。詳しくは、会計報告時に説明します。

5) 募集チラシを (ありますか?) 公共掲示板に貼らせてもらうのか! 各自
確認!!

次回運営委員会 2017年1月13日 (金)

次々回運営委員会 2017年2月3日 (金)



12/14 (水)
18:30~
堀江PWT

12/18 (日)
13:15~
此處に記述あり
(阪神千鳥橋)

12/21 (水)
18:30~
堀江PWT



1/4 (水)
18:30~
堀江PWT



曲目	作曲	指揮
12/8(土)	19:00	14:00
12/10(日)	18:00	16:00
	19:00	14:00
	18:00	16:00
	19:00	14:00

高木等さんのこと

1976年～1989年夏までフロイデ合唱団団長をつとめた高木等さんが、2016年11月14日、逝去されました。満69歳。葬儀は、ご家族でとり行われました。

高木等さんは、フロイデ合唱団団長であった、というだけではなく、日本の「大合唱」の礎を築いた人々のうちの一人、と言っても過言ではないと思います。

1963年フロイデ合唱団第1回「第九」。これは当時、労音（主として音楽鑑賞を広める活動団体。後に新音と改称）の新しい取組として始まりました。「たくさんのいろんな人たちが、プロの音楽家と一緒に、最高のステージをつくる」ことが、途方もない挑戦であった時代。櫻井武雄先生、外山雄三先生、という音楽家の熱意あふれる指導と同時に、素人側を率いる団長の役割は極めて重要。産みの苦しみ、定着させる難しさを初代・二代目、の団長を中心に乗り越え、1976年、高木さんは三代目の団長となりました。活動は充実し、取り組む音楽の幅も広がっていきました。

その頃には、活動する合唱団・収支を管理する新音、という関係になっていましたが、新音は収支優先方針から、団活動内容にまで強硬な発言をするようになりました。地域での音楽活動を新音自身が推奨していたにも拘わらず、動員数が見込みにくい地域ホールでの公演計画を否定したり、選曲内容に難色を示したり、その一方、当時新音の黒字を支えていた「第九」公演は、合唱団との調整もせず一方的に複数回の設定をしたり…。第九を大切にしたい、丁寧な音楽づくりをしたい、第九以外の曲もとりあげていきたい、そんな合唱団とのずれは、次第に大きくなっていきました。

高木団長は交渉を重ね、団員や先生と話し合い、走り回りました、、、しかし「やはり、もう一緒にはやれない！」そして1985年、合唱団はついに新音から独立、自主公演で進む決意をしたのです。しかしそこから新たな困難が始まりました。新音が仕切っていた範囲の運営業務をイチから手探りでつくらなければならない上、「新音」の看板がなくなった途端ありとあらゆる門前払いを受けたのです。それでも一つ一つ乗り越え、そして1985年12月28日第九の本番にこぎつけました。奇跡的に空いていた厚生年金会館、休みを返上してくれた大阪フィル、ホールは感激に包まれました。現在、各地で大合唱を行う合唱団が独立した運営を行っていますが、このコンサートは明らかにその先駆の一つと言えるでしょう。（この翌年入団の私は、当時の話を、高木さんとともに活動した諸先輩から聴きましたが、誰もが、どんな言葉を使ってもこの独立前後の苦しさしんどさを表現するのは不可能、と言っています。）（新音は1986年、新たに、大阪新音フロイデ合唱団を組織した。）

歴代団長の中で、いちばん長い期間、そして、いちばんツライ時期に団長であった高木さん。団長の役目をなしとげるために、団活動以外のいろんな面を犠牲にしていたそう。1989年、団長を相馬久敬さんに引き継いでからは、仕事が忙しくなったこともあり、一旦休団。その後は、都合がつけば団員としてステージに立ち、もちろんコンサートには毎回足を運んでくれていました。

昨年あたりから体調をくずされたのですが、上手に病気とつきあって、元気に、仕事に趣味に、走り回っていました。今年10月頃急変、11月14日、空へと旅立たれたそうです。

強いテノールで、ドイツ語大好き！音程の正しさはみごと！実は指揮者になりたかったそうで、団員同士の自主練習で嬉しそうにタクトを振る姿は、背筋がピンと伸びてかっこよかったです。強いリーダーシップながら、気遣いの人で、場を盛り上げるのが好き、ダジャレの名手でした。

高木さん！さみしいやんか！ 早すぎるよ！ またひょっこり現れてよ！

心より、ご冥福をお祈りいたします。

大阪フロイデ合唱団 団長 吉田 泉